

### 新しい技術の紹介

#### アスパラガスの高畝栽培による作業改善

アスパラガスは定植後 10 年以上連続して栽培可能ですが、施肥・収穫・防除など管理作業は中腰姿勢が多く、作業性の改善が必要とされています。

豊川市の栽培農家では、対策としてあぜ波板(長さ 120cm、幅 30cm)を活用した高畝栽培に取り組んでいます。

高畝栽培を導入した結果、①通路幅の拡大、②畝面積の拡大、③かん水精度の向上などが認められました。

今後、次年度の春芽収穫量や立茎の作業性向上効果を確認していきます。



改良された畝

#### 高温耐性を有する水稲早生新品種「愛知 135 号」

「愛知 135 号」は、高温耐性を持つ水稲の早生新品種で、農業総合試験場と JA あいち経済連により共同開発されました。

「ゆめまつり」や「あさひの夢」等の早生品種は、8 月上旬から中旬にかけての気温が高い時期に出穂するため、近年は高温により白未熟粒が多く発生し、等級が低下する問題がありました。「愛知 135 号」は、水稲高温耐性品種「TS-3」由来の遺伝子により白未熟粒が発生しにくく、高品質な玄米が収穫できることが期待されます。

令和 3 年度は豊橋市と豊川市で栽培試験をしました。令和 7 年からの一般栽培を目指しています。



左：愛知 135 号  
右：あさひの夢

写真は愛知県 Web ページから引用

#### 豊川市におけるスマート農業の開発・実証プロジェクト

令和 2 年度から豊川市の意欲ある若手スプレーマム農家 4 戸と JA ひまわり他、産学官が連携してスマート農業の開発・実証プロジェクトに取り組んでいます。

事業で導入したスマート農業技術は作付計画・雇用管理・環境制御の 3 システムで、収量の増大とスプレーマム 1 本あたりの労働時間削減を目指しています。これまでに複数ほ場の年間作付計画の見える化、定植など繁忙期のスポット雇用、ほ場環境の見える化・好適環境条件の分析、分析結果に基づく環境制御等を実証しています。



好適環境条件分析用の  
光合成チャンパー

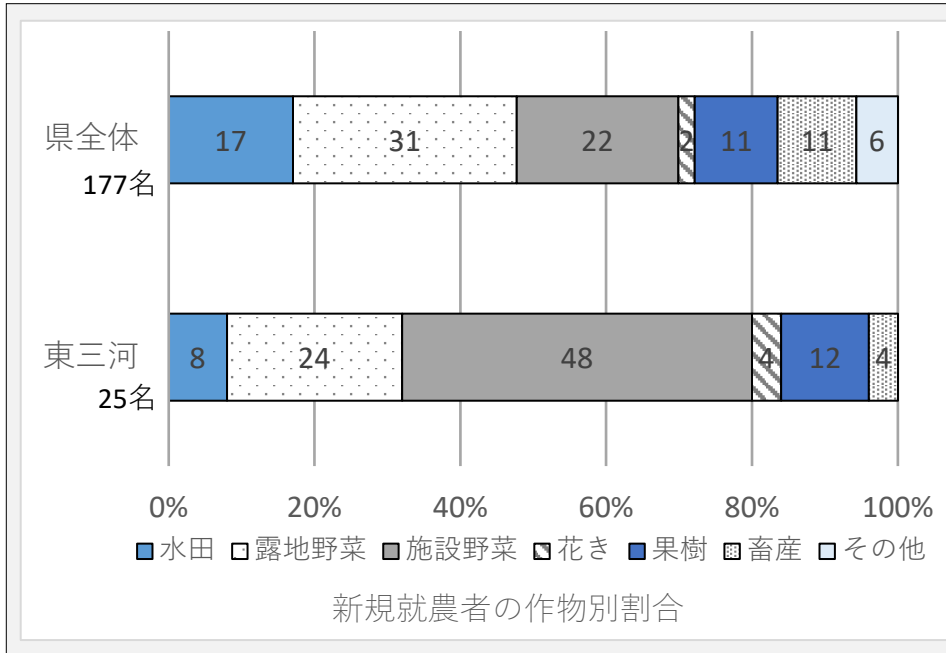
#### 夜間冷房によるハウスミカン品質向上

ハウスミカンの需要期にあたる 7 月下旬から 8 月上旬は高夜温により着色の遅れや浮皮が発生しやすく、品質の低下が問題となっています。そこで蒲郡市柑橘組合では、ヒートポンプの冷房機能を活用したハウスミカンの夜間冷房技術の確立に取り組んでいます。令和 2 年度は着色初期から収穫終了までの夜間冷房により、果実の着色促進と浮皮軽減効果が認められました。また、実証農家からは費用対効果が高いとの評価が得られています。



夜間冷房に使用する  
ヒートポンプ

## 令和3年度の新規就農者数



管内三市（豊橋市、豊川市、蒲郡市）の新規就農者は25名で県全体の14%を占めています。作物別で見ると露地野菜と施設野菜の割合が多く、合わせて72%を占めています。県全体と比較すると施設野菜の割合が大きくなっています。

就農の経緯は、新規学卒が16%（県全体11%）、Uターン就農が68%（同37%）、新規参入が16%（同51%）です。県全体と比較してUターン就農の割合が大きいという特徴があります。

## 管内農業の話題

### 令和3年度新農業経営者セミナーを開催

普及課では、毎年、就農後1～3年程度の方を対象に、農業経営に関する技術や基礎知識を学ぶセミナーを開催しています。今年度は全5回計画し、これまでに「部門別・農業制度研修」、「土壌肥料研修」、「病虫害防除研修」を実施しました。「部門別研修」では、作目ごとに、現在の課題、将来の目標、目標を達成するための手段について、受講者同士で意見交換をしました。



部門別研修の様子

残り2回は、「農業機械研修（10/28）」、「経営管理研修（11/17）」を計画しています。ご興味のある方は担当（西山優也）までお気軽にご連絡ください。

### 豊橋かき塾が無事修了する

JA 豊橋は平成30年度から柿産地の担い手確保や技術継承を目的に「豊橋かき塾」を開催しています。年5回のスケジュールで、農業改良普及課が栽培管理や病虫害対策などの講義したのち、受講生のほ場で実習を行っています。

令和2年12月のせん定から開始し、10月の収穫で今年度の全日程が終了しました。閉講式では受講生20名に講習修了証が手渡されました。



講義を受ける受講生

### 水田作後継者向け勉強会を開催

管内には40歳以下の水田作後継者が9名おり、将来は経営の中心的役割を果たすことが期待されます。普及課では今年度、若手の水田作後継者が栽培技術や農業経営の知識を習得し、情報交換や親睦を深めることを目的に勉強会を立ち上げました。

第1回勉強会は、近年問題となっているイネカメムシやトビイロウンカ等の生態と防除をテーマに開催し、後継者8名が参加しました。普及課の作物担当者が資料を説明した後、畦畔の管理や防除薬剤について参加者同士で意見交換が行われました。今後、年2回程度の開催を予定しています。



普及課の説明を聞く後継者